

「常陸秋そば」以外のそば品種を栽培する際のお願い

9月から10月頃に開花する観賞用の赤花そば等は、近隣（概ね半径2 km以内）に「常陸秋そば」※が栽培されていないことを確認したうえで、栽培するようお願いいたします。

（作物としてのそばの特性）

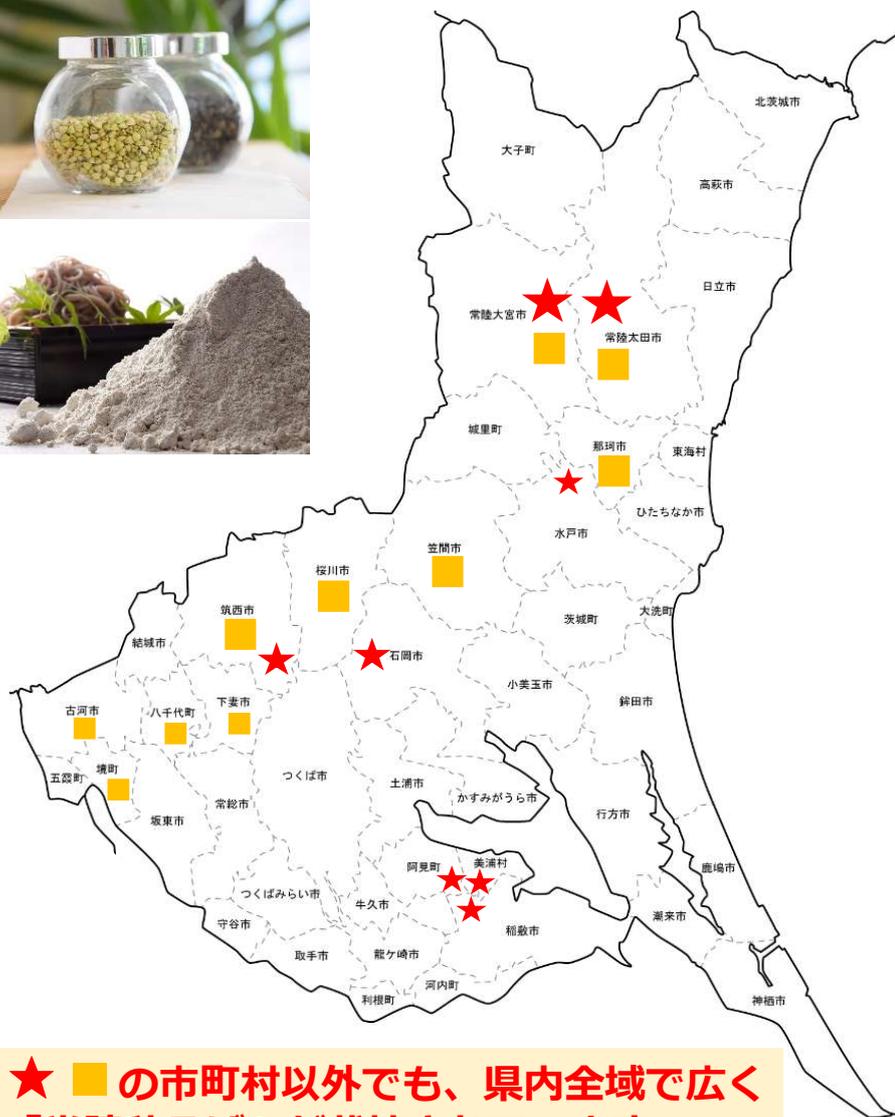
そばはミツバチや風によって受粉し結実します。このため、近隣に他の品種が栽培されていると、異品種間の受粉によって品種特性が変化（以下「交雑」）してしまいます。

また、交雑した種子で栽培すると、生産物の特性に影響が出てしまうことから、特に**種子生産では、他の品種と交雑しないことがとても重要です。**

※ 県が育成した「常陸秋そば」は、香りの高さや甘みに優れているのが特長で、全国のそば職人やそば通からも高い支持を得ており、重要な特産品目です。



「常陸秋そば」は、9月に写真のような白い花を咲かせます。



★ 令和3年度「常陸秋そば」種子生産地区

- ①常陸太田市：約30ha
（赤土町、下宮河内町、上利員町、中利員町、箕町等）
- ②常陸大宮市：約6ha
（山方、下小瀬、野上）
- ③美浦村（郷中、木原、土屋等）
阿見町（大形等）
稲敷市（犬塚）：約9ha
- ④その他
水戸市上国井町、石岡市柿岡等、
筑西市（明野地区）

■ 令和2年産「常陸秋そば」作付面積 上位10市町村

★ ■ の市町村以外でも、県内全域で広く「常陸秋そば」が栽培されています。

常陸秋そば振興協議会・茨城県・（公社）茨城県農林振興公社
J Aグループ茨城・茨城県食糧集荷協同組合・茨城県食糧販売協同組合